

2018年(平成30年)7月24日(火)

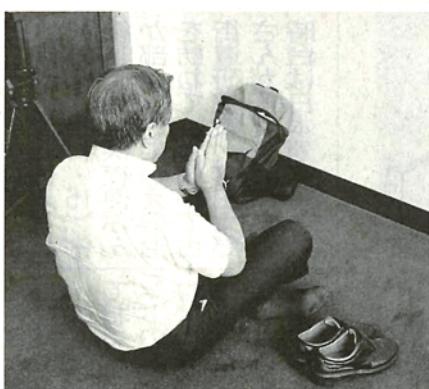


市民の会 事業見直し要望書

三島市が推進する三島駅南口東街区の再開発について、NPO法人「グラウンドワーク」代表の三島（小松幸子理事長）と「三島駅南口の整備を考える市民の会」（渡辺豊博代表）が23日、3763人分の署名とともに事業見直しの要望書を豊岡市長に提出した。豊岡市長は「事業を中止する考えはない」と即答。「中止するなら私を殺してからにして」と壁に向かい座り込み打ち首を待つかのように合掌してみせた。

東街区約1・3㌶の

市長「中止なら私を殺して」



「中止するなら私を殺してからにして」と壁に向かい座り込み打ち首を待つかのように合掌する豊岡武士市長

再開発事業は市が事業者を公募し、ミサワホームを代表とする共同企業体による高さ99・5㍍の高層ホテル・マンションなどを建設する案が4月に最優秀提案者に選ばれている。提出された要望書

は、①財政破綻を誘導する事業内容の根本的な見直し②市民総意の計画づくり実施③地下水の流れを検証する環境アセスメント実施④回遊性のある街づくりと富士山の眺望の保全——を求めるもの。要望に対し、豊岡市長は「1997年に土地の払い下げを受けた。

三島駅南口東街区の再開発

のは駅前にぎわいを作ることだったが、過去20年見向きもされなかつた」と再開発は長年の課題だったと強調。「議会で審議し市民説明会も開いていいとも話し、論争するうちに打ち切りを待つパフォーマンスをした。

要望後の取材に、豊岡市長は「長い期間議会でも審議している。理解していくだけないのは残念」と述べた。一方の渡辺代表は「私を殺して」とは常軌を逸している。冷静に三島の将来を考えほしい」と述べた。

【石川宏】